

1 学校として目指す授業

自ら考え、説明や対話を通して学びを深め、振り返りや計画的な学習を重ねながら達成感と学びの楽しさを実感できる、個々の理解度に応じた授業
--

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（中学校 3 年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問調査の分析
・各教科の平均正答率で全国平均を上回っている。 国語では「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の正答率は同等程度であり数学では「知識・技能」の観点の正答率が高い。英語では学習指導要領における「聞くこと」の領域の正答率が比較的高い。 ・国語を「好き」と回答する生徒の割合が42.2%と、全国の2倍以上いる。 ・授業におけるICT活用の割合が全国に比べ低い。	・平日に3時間以上学習する生徒、および、休日に4時間以上学習する生徒の割合が全国より高い。全体的に「全くしない」生徒の割合は全国より低い。 ・将来の夢や目標をもっている生徒の割合が、全国に比べて10%以上高い。 ・困りごとや不安があるときに、先生に相談できる生徒の割合が低く、悩みを一人で抱えがちな傾向にあることが推測される。

(2) 都「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析

・授業内容の理解度は全教科で4点中3.2～3.5と比較的高い水準である。 ・学習理由として「将来の仕事や生活に役立つから」、「しっかりと考えられるようになりたいから」など、内発的動機が強い。 ・教科の得意度は全体的に4点中3.0を下回る教科が多い。社会は4点中2.5と特に低く苦手意識が強い可能性がある。 ・家庭学習について「全くしていない」約9.3%、「毎日30分より少ない」約18%と、家庭学習時間が短い生徒が一定数存在する。
--

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
東京都体力テストの結果によると、学年ごとに多少ばらつきはあるものの、全体的にはおおむね全国平均に近い数値であった。しかし、全学年男女とも握力と上体起こしが平均値より低かった。筋力・筋持久力がないと、正しい姿勢をキープできなかったり、疲れやすかったりするので、体幹も含めて毎日少しのトレーニングを長い期間継続して行うことが大切である。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

・教科ごとの苦手意識が強く、自己評価が低い生徒が多い。 ・学習方法の工夫や深い理解、説明力・対話力の実践が弱い。 ・家庭学習の計画性・予習復習の習慣が十分でない生徒が一定数いる。 ・学習意欲はあるが、持続力が弱い。
--

4 学校全体の授業改善の視点

・自分の考えや理解したことを他の生徒や先生に説明したり、グループで意見交換や話し合いを行う活動 ・学習内容を振り返り、できたこと・分かったこと・課題を整理する振り返りシートの活用 ・他教科で学んだ知識や考え方を活用して課題解決に取り組む横断的な学習活動 以上3点を実践し、学びの楽しさと達成感を実感できる授業づくりを目指す。

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。 ※学校経営方針との関連を確認すること。 ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。 ③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。 ④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。 ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → <u>学校指導課へ提出する。</u> ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。 評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1 学 年	・思考や表現の型を身に付け、根拠をもって自分の意見を発信するなど、主体性を身に付ける。		・ICTを活用し、グラフや資料の読み取りの基礎・基本の定着をはかり、課題について考え、発表し、思考力や表現力を培う。		・基礎的・基本的な学力の確実な定着を図る。グループワークによる多角的な考え方の共有や、ICTを活用した視覚的な学習を通して、数学的な見方・考え方を働かせ、課題を解決する力の育成を目指す。		・観察、実習、実験にて知識を確認、検証し、グループ討議等で発展的学習へ方向付けを行い定着を図る。 ・ICT等を使用した自ら学びと向き合う習慣を身に付けさせ思考力、判断力、表現力の向上につなげる。		・楽譜の読み方や記号、音楽の諸要素について実際の音楽活動と関連付けて指導する。 ・指導者用デジタル教科書、Teamsなどを用いてパート別音源や参考音源を創作活動に活用する。		・基礎的な知識・技能を確実に身に付けられるよう、見本やICTを活用した視覚的な説明と、短時間で試す活動を充実させる。制作途中の鑑賞や振り返りを取り入れ、学んだことを自分の表現に生かす力を育成する。		・毎時間の準備運動に、正しい形での筋力トレーニングを行う。		・技術：木工実習にて安全に配慮する意識を高め、実生活において学んだことを実践する場面をつくり、基礎の定着を図る。 ・家庭：調理実習にて衛生・安全に配慮する意識を高め、家庭生活でも学んだことを実践する場面をつくり、基礎の定着を図る。		・音声の指導や音読活動を通して基礎を重視するとともに、スピーチ等の表現活動を通して家庭学習に自主的に取り組む態度を育てる。		・意見の共有や話し合いなど、目的に合わせて手法や人数を変えることで、多面的・多角的に自他の道徳的価値に触れ、考えを深める態度を養う。	
2 学 年	・到達目標を構造的に把握し、ICTを活用して他者の意見に触れながら自分の考えを深める力を養う。		・社会的な事象を実践し、自分事として捉える学習をさせる。また、グループワークなどの協働的な学びを推進することで、生徒の主体性や思考力を養う。		・証明等の分野を通して身に付けたことを基に、論理的に思考する力を身に付けさせる。ICTを活用して主体的に学ぶ態度の向上を図る。		・探究的な学習を通じて、協働的な学びを推進し、多様な考えに触れる機会を多く設ける。		・自分の思いを表現に生かすことができるよう、音楽の要素と表現の工夫を関連付けて考えさせる。 ・指導者用デジタル教科書、Teamsなどを用いてパート別音源や参考音源を創作活動に活用する。		・自分の表現意図に応じて、色や形、構図、技法などを選択・工夫できる授業をを目指す。制作途中で作品を比較したり、互いに意見を伝え合ったりする活動を充実させ、試行錯誤しながら表現を改善する力を育成する。		・毎時間の準備運動に、正しい形での筋力トレーニング、筋持久力トレーニングを取り入れる。		・技術：はんだづけ実習、栽培実習にて安全に配慮する意識を高め、実生活においても学んだことを実践する場面をつくり、基礎の定着を図る。 ・家庭：調理実習にて衛生・安全に配慮する意識を高め、学んだことを家庭で実践し、自身の生活をより豊かにする力を育成する。		・音読活動やライティングノートなどを活用した書く活動を中心に、基本的な内容を繰り返すことで基礎力を付け、パフォーマンステストを通して表現力を高める。		・生徒が自らの考えを表現し多様な考え方に触れることを通して、物事を多面的・多角的に捉える力を身に付け、自身の課題解決に取り組む態度を養う。	
3 学 年	・話し合いや相互評価、振り返りを通して、他者の意見を聞き自分の考えを更に深める力を養う。必要に応じてICTを活用し、効果的に発信する力を身に付ける。		・歴史のターニングポイントや日常生活に潜む問題点の本質に迫る探究学習を通して、課題を設定し解決のための思考力や判断力を高める。		・1・2年で学んだことをもとに、自力解決する能力を高める。自身の予想をもとに数学的活動に取り組ませるなどの工夫を行う。あわせて、自主的にICTを活用する力を養う。		・ICTを活用し協働的な学びを推進する。単元ごとに振り返りを行い、既有的知識や自己の考えの変容を自覚できるようにする。		・表現の目的を明確にし、歌詞や曲想、音楽の諸要素を関連付けながら表現を深める。 ・これまでに身に付けた知識や技能を活用し、自分たちの表現の課題を具体的に捉えさせる。		・自分なりの主題をもち、その実現に向けて表現方法を工夫できる授業を目指す。制作や鑑賞における対話を充実させ、自分の考えを作品や言葉で表すとともに、他者の見方を取り入れて考えを深める力を育成する。		・毎時間の準備運動に、正しい形でのパワーとスピードのつく体幹トレーニングを取り入れる。		・技術：情報の技術を通じて社会におけるICTの進歩について学び、情報セキュリティや安全な情報の取り扱いを通じて実生活に生かし、基礎の定着を図る。 ・家庭：衣食住・消費生活と環境を見直し、自身の家庭生活の中で、持続可能な社会を実現する力を身に付ける。		・教科書本文や「模擬トレ」を活用し、長文読解力を高める。 ライティングテストや発表活動の練習を積み重ね、英語で自分のことを表現することができる力を伸ばす。		・物語に触れつつ、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める態度を養う。	